

復活 ヨハネ 20:19-23

1. その日、すなわち週の初めの日の夕方のであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」(20:19)
 - a. この章にも書かれているが、この日の朝早く、マリヤと何人かの弟子たち（ペテロとヨハネ）が安息日の後墓の様子を見に行った。イエスが復活されたということは彼らの頭になく、死体がなくなっていることに混乱した。マリヤはよみがえりのイエスに出会う特権にあずかり、他の弟子たちに知らせる。
 - b. 同日の夕方、弟子たちは集まっていた。彼らは自分たちもイエスと同じ運命をたどるのではないかとおびえていた。イエスは「もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します（ヨハネ 15:18-20）」と教えられた。
 - c. ドアには鍵がかかっていたが、イエスは中に入れ彼らの中に立った。先ほどマリヤは復活のイエスに出会ったと言ったが、その時彼女はそれがイエスだとわからなかった。何かが違っていただけだ。ここではイエスは壁を通り抜けている。イエスの新しい肉体は外見も機能も変わっていた。
2. こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」(20:20-21)
 - a. ところがイエスの体には十字架による傷が残っていた。私の考えでは、復活したイエスの体には肉体的な傷はなくなっていて、だからマリヤは最初それがイエスだとわからなかったのではないかとと思う。ここで十字架の釘による傷が残っていたことは興味深い、これはイエスが忠実に使命を完了したという証であり、復活によって「治らなかった」傷であった。天においては美の基準というものも新しくなる。私たちが神に対して不従順だったためにイエスが迫害を受け、それによって受けられた傷は天では美しいものとなる。
 - b. 復活後の体の機能は変わると言ったが、私たちにもいつの日か必ず復活は起こり、一人一人新しい体が与えられる。イエスに望みをおく者は、イエスご自身が体験されたような輝かしいよみがえりを経験することになる。
 - c. この輝かしい復活は、イエスが父なる神の命令に従ったように、イエスの命令に従った者に与えられる。「父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」父なる神はどのようにして御子イエスを遣わしたのだろうか？それについてはもう一度ヨハネを読んでみると良い。
3. そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」(20:22-23)
 - a. 初めてくださった聖霊は、使徒行伝に記録されているペンテコステの時のような、爆発的にあふれる聖霊ではなかった。聖霊はカリスマ的な神の賜物であるだけでなく、私たちの神からの相続権を保証するものである（私は復活も神から相続するものの一部だと考える）（エペソ 1:11-14）。
 - b. イエスは神の霊を私たちにくだけるだけでなく、罪を赦す力と、罪赦すことを抑える力を授けてくださる。私の考えでは、これは私たちが天国と地獄の鍵を持つということではなく、人々が神の恵みを乱用しないように、そしてキリストの御体にとどまるように、教会にはある程度の権威が与えられている、ということだと思ふ。